

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	神奈川県
-------	------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大磯町立国府中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	2	12	
生徒数	114	106	141	3	364	26

II 研究の概要

1. 研究主題

<p><b>“自ら学ぶ意欲をもち、確かな力をつける学習指導”</b> 生徒一人ひとりの実態に応じた指導をととして</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年である。 全学年取り組みたかったが、1年生よりは、2年生の方がより理解の差が開いている現状がある。</li> <li>・ 3年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年である。 前年度から少人数学習を試み、それが好評だったので、さらに、充実させたい。</li> <li>・ 1年生・英語 積み重ねが必要とされる教科であり、中学入学後に基礎・基本の徹底を図る。</li> <li>・ 1年生・理科 T Tのある時間に、実験・観察の授業を組み込むことによって、よりきめ細かな支援をする。</li> <li>・ 2年生・理科 電気分野は毎年、理解が困難なため、T Tという形で支援をする。</li> </ul>
--

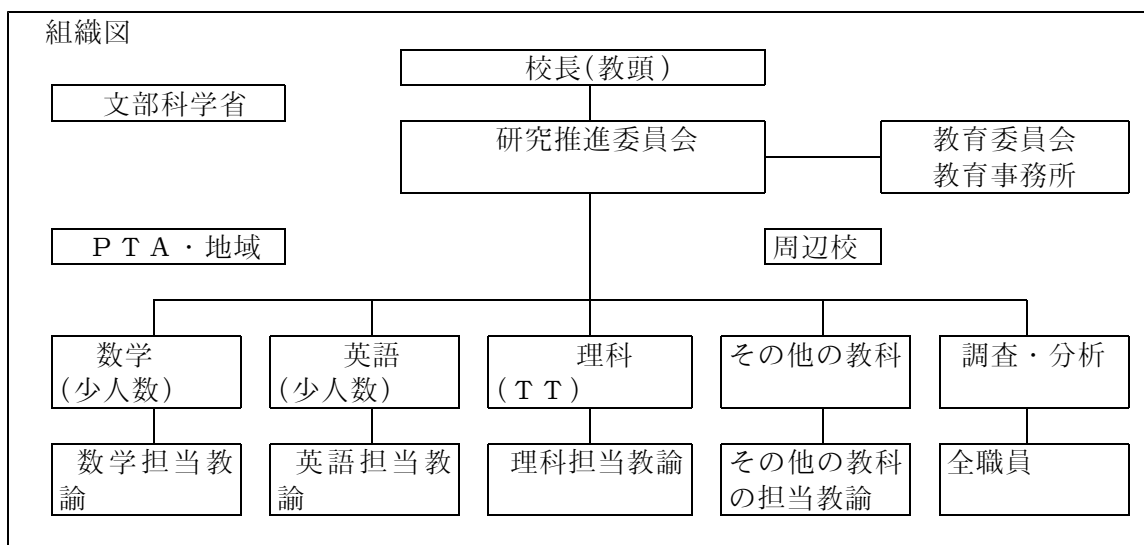
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成14年度及び平成15年度少人数学習の成果の検証</li> <li>・ 少人数学習「数学・英語」の指導方法・指導内容の研究</li> <li>・ T Tの授業「理科」の指導方法・指導内容の研究</li> <li>・ 一斉授業における「生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導」のあり方の研究</li> <li>・ 生徒の学力を伸ばす評価のあり方の研究</li> </ul>
--------	--

	・研究紀要作成
--	---------

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間研究の成果のまとめ</li> <li>・研究報告会の開催</li> <li>・実践報告冊子作成</li> </ul>
--------	---

### (3) 研究推進体制



## Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

#### (1) 数学科

・中郡中学校の基礎計算力テストのデータを昨年度と比較し、その伸び具合を調べたが、現在の時点で、目立った向上は見られない。

・一斉授業による指導に比べ、教師にとっては、一人ひとりに接する時間的、精神的な余裕を持つことができるようになり、生徒一人ひとりが授業に参加する意欲もかなり向上してきている。授業への集中力もついてきているように思われる。

・少人数制の授業に対するアンケートでは、これまでの一斉授業に比べ、「質問がしやすくなった」、「授業中に発言しやすくなった」、「進み方が自分にあってきた」、「集中して授業に参加できる」など、実施を肯定する答えが多かった。また、わからないところを聞きやすくなったことで、学習意欲が出てきたなど、意欲の向上につながる意見も出され、生徒の授業への参加態度が向上していることがわかる。

#### (2) 英語科

・一斉指導を経てからの少人数編成ではないので、生徒たちの大きな変化などはない部分がある。しかし、アンケートなどには、「先生の話がよく聞き取れる」、「英語を使う時間が増えて楽しい」、「緊張しないで勉強できる」、「発音が聞きやすい」などの回答も多く、生徒たちはリラックスして授業への親密度も高いように思われる。

・入学当初より少人数学習を続けてきて9ヶ月が過ぎた。生徒も授業中に発表したり、他の生徒たちとの英語でのコミュニケーション活動にも慣れてきた。少人数制によっ

て教師が個々の生徒への対応の機会を多く持てることで、生徒の意欲が向上し、英語を使って自分自身を表現する能力も、少しずつではあるが着実に向上してきた。また、学期ごとに行ってきた自己評価やアンケートでも、生徒の理解力が向上し、少人数学習を支持している様子が伺える。

### (3) 理科

・今年度はじめに、アンケートによってT Tに関する生徒の考えを調査した。その結果、賛成 48 反対 17、どちらでも 24 という状況でスタートした。2年生では、7月より、週に 1 時間電気の時間をとるという方法で実施しており、この取組はどのような成果をもたらすかは検討中である。

・1年生では、4月からT Tを実践し、T Tの授業に関する意見を6月に調査した。その結果、生徒の大多数はT Tについて大変良い、良いと感じていること。その理由として、分からないことなどを質問しやすいこと、などが多く見られた。また、あまり良くない、良くないの理由としては「集中できない。」といった理由が述べられている。また、今後のT Tによる理科の授業に関しては、「2人だから2倍楽しい授業にしてほしい」、「2人で協力して楽しい授業にしてください」などのように、生徒の思いや願いが込められたものも見られた。

## 2. 今後の課題

### (1) 数学科

・机間指導の機会を増やし、意欲の向上に努めるとともに、基礎計算力の向上や、基本的な内容の定着を図る。その成果を、テストなどで確認したい。

・来年度は、コースの希望調査以前に、生徒が自分自身の学力を客観的に診断・判定できるようなテストを実施したい。2年生での少人数学習導入より1年生の時からやっておくことができるとさらによいと思われる。

・生徒一人ひとりの学力の伸長を教師側が客観的に把握できたり、生徒自身が自己診断できるような標準化されたテストを実施し、指導の改善・向上を図りたい。

・数学科として、「現在、生徒に身につけている学力」や「これから生徒に身につけさせたい学力」など「学力」について教師が共通の「学力観」をもっておきたい。

### (2) 英語科

・今後も生徒一人ひとりの実態に応じた少人数指導を実践し、現在定着しつつある基礎・基本の学力を、一斉指導での定着率よりも高く維持、さらに伸ばせるように努力していきたい。また、基礎・基本をもとにして実際の会話場面につなげられるような活動の機会を多くして、一人ひとりの表現力を養っていきたい。

・今年度は、英語を使って自分自身を表現する力を養うために、自作のワークシートを作り、毎時間表現活動をしてきた。今後は、ALT を含めた教師間の連絡や打合せを密にし、表現しやすいワークシートを作成するなど、表現活動を活発にして、自己表現力をさらに向上させていきたい。

### (3) 理科

・T Tの導入は、従来の「1人」で行っていた評価活動を「複数」で行うことになるので、「多様な見方」ができるようになる。つまり、多様な見方による評価活動が可能になる。授業実践の中で具体的な指導と評価のあり方を、さらに研究していきたい。

・週1時間ではあるが、生徒一人ひとりの実態に応じた指導をT Tで実践することにより、学ぶ意欲を育み、確かな学力を身につけられるような指導方法をさらに研究していきたい。

#### Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

##### 〔第1回〕理科T Tについてのアンケート

目的…T Tによる学習の方法について生徒がどのように受け止め、どのように感じているかという状況を把握し、より効果的な授業の方法を模索し検討する資料にするため。

対象…生徒 理科2クラス(1年生 38名 2年生 36名)

内容…T Tによる学習についての感想、授業の形態、希望などに関する記述式による調査。

時期…平成15年6月

##### 〔第2回〕理科T Tについてのアンケート

目的…T Tによる学習の実施にあたり一番ふさわしい分野を選択決定し、T Tの効果を指導に生かしていくため。

対象…生徒 理科2クラス(2年生 36名 3年生 35名)

内容…前年度の学習を振り返って、物理・化学・生物・地学4分野の中から特に不得意な分野とその理由について記述式による調査。

時期…平成15年6月

##### 〔第3回〕数学少人数学習の方法についてのアンケート

目的…少人数学習の方法についての調査を実施することによって意識を高めるとともに、より効果的な方法を模索し検討する資料にするため。

対象…生徒 数学少人数学習クラス(2年生 106名 3年生 141名)

内容…少人数学習の方法について形態、組織編成、学習の進捗状況、感想などに関する選択および記述式による調査。

時期…平成15年6月

##### 〔第4回〕英語少人数学習の方法についてのアンケート

目的…少人数学習によって学力の向上を実感できたかという観点で生徒の実態を把握し、今後の指導に生かしていくため。

対象…生徒 1年生全クラス(1年生 113名)

内容…少人数学習の方法について形態、学習の進捗状況、感想などに関する選択および記述式による調査。

時期…平成15年6月

##### 〔第5回〕理科T Tについてのアンケート

目的…第2回アンケートを受けて、T Tによる理科学習分野を決定するため。

対象…生徒 2年生全クラス(2年生 108名)

内容…電気に関する学習が不得意な生徒が多いというアンケート結果から、T Tの学習では電気を取り上げることについての問いかけ、および希望に関する記述式による調査。

時期…平成15年7月

##### 〔第6回〕少人数学習の方法についてのアンケート(1年英語、2・3年数学)

目的…開始された少人数学習の方法について調査を実施することによって認識を深めるとともに、より効果的な方法を模索し検討する資料にするため。

対象…保護者 生徒(1年生 112名 2年生 106名 3年生 141名)

内容…少人数学習の方法について形態、組織編成、学習の進捗状況、感想などに関する選択および記述式による調査。

時期…平成15年7月

##### 〔第7回〕少人数学習についてのアンケート(1年英語、2・3年数学)

目的…少人数学習について、生徒対象にアンケートを実施することによって実態を把握するとともに、より効果的な方法を模索し検討する資料にするため。

対象…生徒(1年生 112名 2年生 106名 3年生 141名)

内容…少人数学習の方法について形態、組織編成、学習の進捗状況、感想などに関する

る選択および記述式による調査。  
時期…平成16年2月

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ◎ 校内研修会  
平成15年 9月22日(月) 15:00~17:00  
「自ら学ぶ意欲をもち、確かな力をつける学習指導」  
講師 文教大学学長 石田恒好 先生
- 平成16年 1月23日(金) 14:40~17:00  
「学ぶ意欲を引き出す授業とは何か」  
講師 北海道大学教授 鈴木 誠先生
- 参加者：本校教員、PTA役員・保護者、学校評議員、隣接学校教員  
目的：学力向上フロンティアスクールの教職員研修とともに、周辺校教員や保護者にも情報を提供し広く理解を求める。
- ◎ 実践報告書(中間報告) 平成16年 3月 研究冊子の配布  
◎ 活動報告(他校研究発表会)平成15年10月29日  
研究主任が取り組みの中間発表
- ◎ 研究発表会 平成16年10月29日13:00~16:30  
目的：生徒の個性を尊重し、個を生かすための協力的な指導のあり方を中心に  
情報交換や研究協議を行い、中学校教育の「指導方法の改善」のより一層  
の推進に資する。  
対象：中教育事務所管内小・中学校において、指導方法の改善を中心的にすす  
める教員

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4~6学級		
	7~9学級	10~12学級		
	13~15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	